

平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 城山 中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	88 人	国語B	88 人
② 数学A	88 人	数学B	88 人
③ 理科	88 人		

5 留意事項

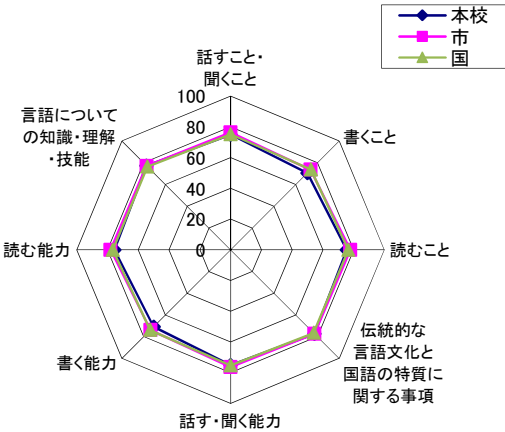
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城山中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

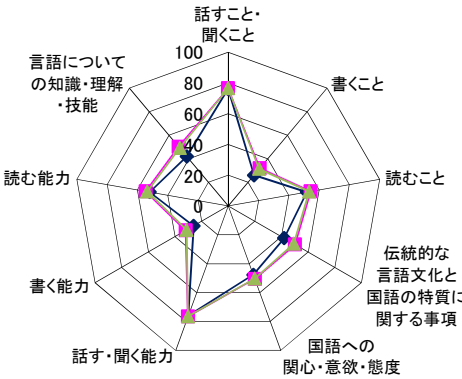
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	75.0	76.4	75.2
	書くこと	70.7	73.7	73.9
	読むこと	75.6	78.0	76.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.3	77.2	76.5
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	75.0	76.4	75.2
	書く能力	70.7	73.7	73.9
	読む能力	75.6	78.0	76.7
	言語についての知識・理解・技能	77.3	77.2	76.5



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	76.1	76.5	76.6
	書くこと	26.1	31.9	31.3
	読むこと	51.9	54.5	53.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	42.0	50.2	49.2
観点	国語への関心・意欲・態度	47.7	50.6	50.3
	話す・聞く能力	76.1	76.5	76.6
	書く能力	26.1	31.9	31.3
	読む能力	51.9	54.5	53.5
	言語についての知識・理解・技能	42.0	50.2	49.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

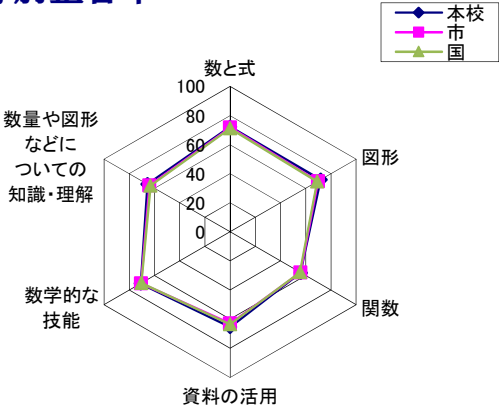
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○「話し合いの際のメモの取り方の説明として適切なものを選択する」や「話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問する」では、全国の平均を1～2ポイント上回っている。 ●「全体の部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話す」は、全国の平均を1ポイント下回っている。	・総合的な学習の時間で行っている、「自分たちで調べたことを発表する学習活動」が功を奏していると考えられる。総合的な学習と国語科で行う指導とこれからも結びつけて進めていきたい。 ・一方通行の発表に留まらず、相手の考えを聞いて、それに対する自分の考えを持ち発表するという活動を意識的に取り入れていく。
書くこと	○「段落相互の関係に注意し、読みやすくわかりやすい文章にする」については、全国の平均を1ポイント上回っている。 ●「書いた文章を読み返し、伝えたい内容が十分に表されているかを検討する」については、全国の平均を9ポイント下回った。	・小説、説明的文章など、段落構成などに注意して文章を読み、要点をまとめ、発表し合う等の活動を継続していく。 ・意見文の下書きを書くときなどで、意見の趣旨を明確にするために一文を書き加えるなどの指導の工夫を行っている。
読むこと	○「場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する」では、全国の平均を1ポイント上回っている。 ●「文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える」ことは全国の平均を2ポイント下回っている。	・文学的文章の読み取りでは、情景描写や心情描写など場面を捉えて読み取っていく授業を展開していく。 ・文章の読み取りに、調査データなどの情報の読み取り作業を意識的に授業に盛り込んでいく。 ・小説、物語文の多角的読み取りを重視した授業展開を考え、実践していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字の読み書きに関しては、ほぼ全国の平均を上回っている。「接続詞の働きについて理解する」では、全国の平均を2.5ポイント上回った。 ●「彼はせきを切ったように話し始めた」「意見の折り合いをつける」など「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」では、全国平均を3～4ポイント下回っている。	・1年生から「漢字学習帳」を活用し、それに伴った漢字の小テストを行っている成果だと考えられる。今後も継続していきたい。 ・文法は、確認プリントや練習問題を数多く活用していく。書写の知識を深める指導を丁寧に行っていく。 ・慣用句やことわざなど文脈の中で適切に使う授業を意図的に増やしていく。

宇都宮市立城山中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

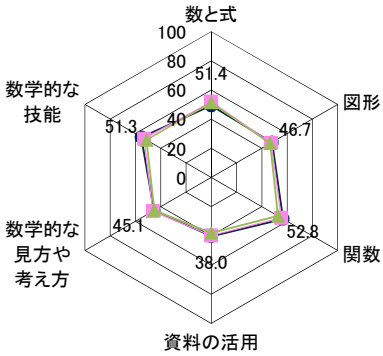
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	72.2	71.7	71.1
	図形	71.7	69.7	69.1
	関数	56.0	55.8	55.5
	資料の活用	65.3	62.9	63.5
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	70.9	70.6	70.4
	数量や図形などについての知識・理解	65.5	64.0	63.3



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	49.4	52.0	51.4
	図形	48.1	47.3	46.7
	関数	56.8	55.4	52.8
	資料の活用	40.3	39.8	38.0
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	45.3	46.3	45.1
	数学的な技能	55.4	53.1	51.3
	数量や図形などについての知識・理解			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

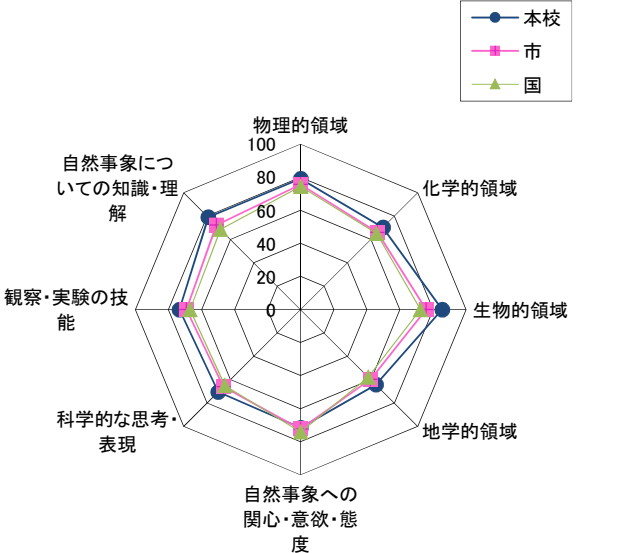
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○市や全国と比べて、正答率が上回っている。連立方程式を解く問題では、全国の平均正答率を4.1ポイント上回った。 ●指数を含んだ正の数、負の数の計算や等式の変形の問題が市や全国の正答率よりも低い結果になった。	・チームティーチングを有効活用し、個別指導を丁寧に行って、計算問題の理解を促す。 ・計算の過程を大切に、1つ1つの式の意味を考えさせながら指導にあたっていく。
図形	○多角形の内角の和の性質の問題では、県や全国平均を上回っている。 ●対頂角は等しいことの証明について正しい記述を選ぶ問題では、31.8%と低く、県や全国と比べ、正答率は下回っている。	・基礎問題については、市や全国平均正答率を上回っているため、応用問題を解けるように指導をしていく。 ・証明に関する問題で、正答率が低かった。日頃の授業で周りに説明するという活動を多く取り入れていく。
関数	○グラフから、連立二元一次方程式の解を座標とする点について、正しい記述を選ぶ問題では、県や全国よりも10%以上正答率が高い。全体的に見ても、県や全国を上回るものが多い。 ●点の位置を座標平面上に示す問題では、正答率が59.1%と低く、県や全国と比べても8%以上下回っている。	・関数分野の基礎内容が理解されていない。基礎・基本を1つ1つ丁寧に指導していく。 ・関数の活用の問題では、持っている知識を、どこで、どのように使っていくのかということを重点的に指導していく。
資料の活用	○1枚の硬貨を多数回投げたときの表が出る相対度数の変化の様子について、正しい記述を選ぶ問題では、県や全国と比べて6ポイント以上上回った。 ●反復横跳びの記録の中央値を求める問題では、市や全国の平均正答率を下回っている。	・基本的な考え方は身に付いていて、範囲や確率の問題もできていたため、それを表などに表す方法や日常生活に生かす考え方を伝え、定着させていきたい。

宇都宮市立城山中学校第3学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	物理的領域	79.1	75.7	74.4
	化学的領域	70.3	65.8	65.0
	生物的領域	85.6	75.9	72.5
	地学的領域	64.3	59.8	57.8
観点	自然事象への関心・意欲・態度	71.6	72.3	74.0
	科学的な思考・表現	70.5	66.0	64.9
	観察・実験の技能	73.3	69.1	67.0
	自然事象についての知識・理解	79.1	72.1	68.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物理的領域	○全体として、国や市の平均正答率を上回っている。特に、電流・電圧と抵抗及び電力と発生する光の明るさとの関係に関する問題についてはすべての項目で上回っていた。 ●光の反射の幾何光学的な規則性についての知識・技能の活用の問題について、正答率が若干低かった。	・物理分野の実験については、他の分野のものに比べて、理論値に近い値が出やすいので、実験の準備(条件を整備する)を入念に行い、正しい結果が得られやすいようにする。
化学的領域	○全体として、国や市の平均正答率を上回っている。特に、水溶液の濃度に関する問題や原子の記号についての問題の正答率が高かった。 ●実験の計画を立てる際の条件を整える問題や、探求の過程を振り返り新たな課題を見つけ出そうとする問題の正答率が市や国の平均正答率よりも低かった。	・教師の説明を聞いて、ただそのとおりに実験をするのではなく、課題を解決するために実験の方法そのものを生徒自身がよく考えるように指導・助言をしていく。
生物的領域	○全体として、国や市の平均正答率を大きく上回っている。特に、動物のからだのつくりとはたらきについての問題の正答率は8割を超えていた。 ●刺激と反応に関する問題で、課題を解決するための適切な実験を計画する問題についての正答率が若干低かった。	・生物分野はややもすると知識・理解の定着のみを目指した授業展開になりがちなので、実験や観察も重視して、実際の実験や観察から得られた結果を知識・理解につなげていく。
地学的領域	○国や市の平均正答率を上回っている。特に、太平洋高気圧についての知識、台風の進路予想に関する問題、及び、地震のゆれの伝わり方に関する問題の正答率が良かった。 ●実験の結果を引き起こした原因について、第2の理由を問う問題についての正答率が低かった。	・科学的な思考力や表現力の育成についてはまだまだ課題がある。自分の頭で考察をし、その結果を自分の文章で表現させる機会を増やしていきたい。

宇都宮市立城山中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○自分にはよいところがあると自己を肯定的にとらえている生徒の割合が、県や国の平均を大きく上回っている(当てはまる:46%、どちらかといえば、当てはまる:45%)。学校全体で、生徒の良さを認めて褒める指導を継続していることが、この結果につながっていると考えられる。

○先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思うかの問いに、9割以上の生徒が肯定的に回答している(当てはまる:50%、どちらかといえば、当てはまる:40%)。教育活動の土台である生徒と教師の関係が良好なことがわかる。

○1, 2年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますかの問いに、9割以上の生徒が肯定的に回答している(当てはまる:64%、どちらかといえば、当てはまる:28%)、県(当てはまる:37%)や国(当てはまる:31%)の平均をとっても大きく上回っている。本校の教育活動の特色でもある「ふるさと学習」や「城山あったか活動」を通して、生徒たちは地域の自然や産業、文化財などについて学習する機会を多く得ている。

●家で、学校の授業の予習・復習をしていますかの問いに、およそ5割の生徒が否定的に回答している(あまりしていない:36%、全くしていない:13%)。

●学校の授業時間以外に、1日あたりどれくらいの時間、勉強しますかの問いに、2時間以上と回答している生徒の割合が県や国の平均回答率と比べて低くなっていて、逆に1時間未満と回答した生徒の割合が多くなっている。

●理科の授業で、自分の考えや考察をまわりの人に説明したり発表したりしていますかの問いに、否定的な回答をしている生徒の割合が6割を超えている(どちらかといえば、当てはまらない:42%、当てはまらない:26%)。また、理科の授業で、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますかの問いに対しても、どちらかといえば、当てはまらないと回答した生徒が31%いた。科学的な思考力や表現力の育成についてや、主体的に課題解決学習に取り組む態度の育成について課題がある。

宇都宮市立〇〇〇中学校 (第3学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学習目標の明確化と定着のための振り返りの充実、指導法や授業形態の工夫による学力の向上	・「本時の目標」の掲示カードを各教室に用意し、授業開始時に学習目標を明確化し、授業終末には振り返りを行うなどをして、学力定着の充実を図る。 ・「校内公開授業週間」を企画し、教員相互の授業参観を行い、授業力の向上を図る。その際、「目標の提示のしかた」「振り返りやまとめの方法」「発問の工夫」「グループ活動の取り組み方」などの視点を決めて授業を参観する。	・授業がよくわかるかの問いに対して、肯定的な回答率が高い。特に、理科(90%)について良い結果が出ている。 ・授業がよくわかると肯定的に回答している生徒が少なくない状況であるが、家での予習や復習に関しては、あまりしていない、していないの回答がおおよそ5割いる。家庭学習の習慣化があまり定着していない。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
家庭での予習・復習に取り組む習慣がよく身に付いていない(あまりしていない:36%、全くしていない:13%)。	家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	家庭学習では何をどのようにやればよいのかといった、学習方法の指導をしていく。学校の宿題以外の自主学習に進んで取り組むように指導する。指導方針について、地域学校園内での共通理解を図り、小学校低学年時からの指導を継続できるようにする。